

【目次】

- 生徒指導を一步進めるために
- 新学期を迎えての安全対策

-
- 生徒指導を一步進めるために

●子どもをダメにする叱り方

「説教が長い」「過剰に警告する」「皮肉を言う」「ネガティブな予言をする」などは、子どもをダメにする叱り方です。児童生徒のためという熱意からでも、このような叱り方を繰り返せば、児童生徒から自己肯定感を奪ってしまいます。日頃の指導を振り返って、思い当たるものはありませんか。振り返り、自覚することが生徒指導の第1歩です。(参考『思春期の子に、本当に手を焼いたときの処方箋33』土井高德著・小学館新書)

●スマホ利用ルールづくりのヒント(スマホは1日1時間)

東北大学の研究では、スマホの長時間利用は児童生徒の家庭学習の効果を打ち消してしまうという結果が明らかになっています。最も成績がよかったのはスマホ利用時間がゼロではなく、1時間未満の利用の児童生徒でした。自己管理の力が育った結果ではないかと分析されています。スマホ利用のルールづくりのヒントにしてください。(参考『2時間の学習効果が消える! やってはいけない脳の習慣』横田晋務著・青春新書)

☆横田晋務氏の講演会を開催します。(平成31年2月3日(日)大分県教育会館)
詳細は別添ファイルを参照してください。

●不登校児童生徒の支援はチーム学校で

教師から見た不登校の要因は「いじめを除く友人関係」「学業の不振」「家庭に係る状況」の割合が高く(文部科学省「問題行動等調査」、不登校児童生徒自身からの回答では「教師との人間関係」が高くなります(日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査」)。不登校の要因を見極めるためには、教師だけの視点では不十分です。SCやSSW等の専門家の意見が重要になります。また、学校だけでは対応困難なケースには医療、福祉等の関係機関と連携し、チーム学校で支援に取り組みましょう。

-
- 新学期を迎えての安全対策

●ゴールの安全対策の徹底

体育の授業等でサッカーが行われることが多い季節になりました。サッカーやハンドボールのゴールは、児童生徒がぶら下がりがたくなるような形状をしています。ぶら下がりによりゴールの下敷きとなる事故が発生しています。転倒事故を防止するためには、①児童生徒にゴール転倒の危険性を理解させ、ぶら下がらないよう指導する②ゴールを杭や砂袋等で確実に固定する③使用しないときは倒しておく等の対策が必要です。授業によっては、あえて金属製のゴールを使用せず、三角コーンやハンドボール用ゴールを使用することも検討してください。

●防災・避難訓練の結果を踏まえた危機管理マニュアルの見直し

新年を迎えて早々に熊本県で震度6弱、鹿児島県で震度4の地震が発生しています。災害はいつ発生するかわかりません。防災訓練を通じて、自分だけでなく他の教職員の動きや被害発生時の対応が不明確な点(例:放課後に災害が起きた場合の児童生徒の安否確認方法、休日夜間の発災時における教職員の初動対応)を見直して学校の危機管理マニュアルの改善を図りましょう。

-
- ◎メルマガに対するご意見や取り上げてほしいテーマは以下から投稿してください。

<https://www.egov-oita.pref.oita.jp/8oNP6Dkf>

- ◎過去のバックナンバーは以下のURLから御覧いただけます。

<http://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/mailmaga.html>